



兵庫教育大学大学院同窓会

NEWS LETTER



第16号

令和6年8月31日

大学院同窓会事務局発行

令和6年度兵庫教育大学大学院同窓会総会・第43回全国研究大会【盛岡大会】

令和6年8月3日(土)サンセール盛岡において、大学院同窓会総会・全国研究大会【盛岡大会】が開催されました。盛岡は「盛岡さんさ踊り」の真っ最中で、街は「さんさ踊り」一色の活気に満ちた雰囲気の中、岩手県支部の皆様の丁寧な準備と運営で、会場とオンライン参加者が一体となった大会を成功裏に終わることができました。震災を経験した岩手の復興と教育、震災を後世に伝えるための取り組みや未来に向けた取り組みなど、逆境をバネに復興を成し遂げた岩手の思いが伝わってくる大会でした。盛岡大会実行委員長様をはじめ、副委員長様、事務局長様、大会実行委員の皆様にご挨拶申し上げます。参加者は、会場47名、オンライン12名、総勢59名でした。



13:00 総会

総会は船本秀忠副会長の司会で始まり、新居寛会長、吉水裕也副学長のご挨拶のあと、清水政義関東ブロック長を議長に議事に入りました。審議の結果、令和5年度の事業報告・決算報告、令和6年度の事業計画・予算案等、すべての議案が承認されました。

また2名の退任役員の長年のご功績に対して感謝状が贈呈されました。菅野前事務局長がオンラインで出席され感謝状贈呈と記念品が披露されました。最後に、高知県支部の野村ゆかり高知大会実行委員長から、令和7年度「高知大会」の案内をいただき閉会しました。



14:10 研究大会

<開会行事>

研究大会は、山本勉大会実行委員長の挨拶で始まりました。加治佐学長、吉水副学長をはじめ、大学関係者7名に参加いただきました。ご来賓は以下のとおりです。

加治佐哲也 学長 吉水裕也 理事・副学長 田中賢一 副学長・事務局長 尾田博明 副学長
高橋信雄 教育研究支援部長 富田明德 附属小学校・中学校長 土井健司 院生協前期会長



<学長講話>



最初に、加治佐学長からご講話をいただきました。変化の激しい社会の中で、大学も生き残り、存在意義を発揮するために常に変わっている。中でも、新しい教員養成スタンダードのために「子供たちの自ら学ぶ力を引き出せる教員」の養成を目指した教育課程が今年スタートしたこと。フラッグシップ大学だけが開設できる独自の21単位の科目が、今後広まっていくこと。また、全国から勤務しながら学べる「学び方を自由に選べるフレックスクラス」の入学者増、教員養成高度化のための奨学金返還免除制度など、兵庫教育大学と教育の未来展望について、貴重なお話をいただきました。

<教育実践研究に係る表彰>

続いて、教育実践研究に関する表彰式が行われました。令和6年度に受賞された皆さんは以下のとおりです。

<役員推薦> 嬉野賞：大谷哲弘、川村庸子

<教育実践研究論文> 奨励賞：甲斐順、宮川雄基

日光恵利・川口めぐみ（連名）



<研究実践発表>

研究発表Ⅰの盛岡大学文学部児童教育学科准教授の吉田英章先生は、大会直前のコロナ感染で急遽ビデオ発表となりましたが、指導と評価の検証について発表され、評価という観点で提言をいただきました。

続いて研究発表Ⅱは「復興教育」「防災教育」です。「復興教育」について、大槌町教育委員会統括教育専門官兼兵庫教育大学教育政策リーダーコース准教授の菅野祐太先生から、行政の立場からの教育復興について、13年間の教育政策のたどってきた過程を通して、教育行政が教育復興の中でどの様に取り組んだかという観点で、大槌町教育ビジョン策定に至る過程を熱く語っていただきました。

次に、岩手県陸前高田市立高田小学校副校長の坂井ふき子先生から、学校の中での「復興・防災教育」について発表いただきました。改めて震災が子供たちに与えた影響や震災のすさまじさが伝わってくる発表でした。中でも、命を守るための教育を狭義の防災教育、未来を想像していく資質の育成を広義の防災教育と位置付け、小学校1年生から6年生が学ぶ、系統的な内容の独自科目「たかだ学」を作り上げたこと、順調に防災教育が行われるまで10年を要したことなど、その苦労と実践の成果が発表されました。



研究発表「復興教育」「防災教育」菅野氏・坂井氏

記念講演 三陸鉄道(株)代表取締役社長 石川義晃氏

<記念講演>

最後に、三陸鉄道(株)代表取締役社長 石川義晃氏から「光り輝く三陸を目指して ～開業40周年を迎えた三陸鉄道の未来～」と題してご講演をいただきました。

震災及び台風被害を受けるなど、幾多の試練を乗り越えて復興を遂げた三陸鉄道は、震災当時、岩手県全域で発生した停電の中で、発電できる車両中に災害対策本部を設けるなど大きな役割を担った。鉄道が廃止されて栄えた町は無いという信念で、高校生・高齢者の足、観光資源、防潮堤としての役割を担うために復興に取り組んだ。

現在、沿線人口の減少や車の普及、公共施設の郊外移転など厳しい環境の中、こたつ列車や震災学習列車など逆境を逆手に国内外の観光客の誘致など様々な事業に取り組んでいること、また、平均週2回くらいの取材を受けるなど、広報活動にも精力的に取り組んでいることなど、事業継続の確かな歩みを知ることができました。

<閉会行事・集合写真>

令和6年度「盛岡大会」は、山本勉実行委員長の総括で閉会しました。閉会後の参加者全員の集合写真は、岩手県支部の計らいで写真場での撮影となり、スムーズな撮影でした。ありがとうございました。



<情報交換会>



開会にあたり、滝沢市さんさ踊り保存会の方々によってさんさ踊りが披露され、華やかな情報交換会が開催されました。盛岡大会の話題を中心に、嬉野賞受賞者のお話や懐かしい話題で盛り上がりしました。来年の高知大会の案内もあり、あっという間の2時間あまりでした。高知大会も楽しみです。

<巡検・盛岡市内>

翌日 8月4日(日)は、総勢15名参加による盛岡市内巡検が実施されました。盛岡も梅雨明け直後で、非常に暑い中での巡検でしたが、皆さん元気で楽しい巡検になりました。盛岡駅から巡回バスでさんさ踊り会場へ移動、石割桜、盛岡城跡公園、岩手銀行赤レンガ館などを散策しました。昔の町並みや盛岡七夕まつりを自由散策した後は、老舗おそば屋さんでの昼食です。コロナ禍で「梔子そば」の給仕さんが激減し、梔子そばを提供できるお店も減ってしまったそうで、文化が失われないことを願います。



盛岡大会実行委員会の皆様のご尽力によって素晴らしい大会となりました。ありがとうございました。